

これからの一歩を、みんなで踏み出すために

共に創る まちの未来

町のいまを見つめる

町では、人口減少や少子高齢化が進んでいます。若い世代の転出や出生数の減少により、人口は年々減少し、高齢化も進行しています。

こうした変化は、地域のさまざまな場面に影響を与えています。働く人の減少による担い手不足や、地域活動の維持、医療や福祉、公共交通のあり方など、暮らしに関わる課題も見えてきています。

また、公共施設や道路・橋などのインフラの老朽化も進んでおり、これまでと同じ形で維持していくことが難しくなっています。

こうした状況は、最上町だけでなく、多くの地域で共通しているものです。その中で、これからの暮らしをどのように支え、どのように次の世代へつないでいくのかが問われています。

だからこそ、今の現状をしっかりと見つめながら、これからの町の姿を考えていくことが大切です。

これからの5年間、最上町の未来をつくる新たな計画が始まります。人口減少や少子高齢化など、町を取り巻く環境は大きく変化しています。

だからこそ今、次の一歩を踏み出すことが大切です。未来は、一人ひとりの選択と行動から生まれます。

第5次最上町総合計画 後期基本計画

始まる――。

気がつけば、町の風景も少しずつ変わってきました。子どもたちの声や人の流れなど、日々の暮らしの中で感じる変化は、ゆっくりと、しかし確実に広がっています。

これからの5年間、最上町の未来をつくる新たな計画が始まります。人口減少や少子高齢化、地域の担い手不足、公共施設やインフラの老朽化など、町を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした課題は、私たちの暮らしに直結するものです。

一方で、人と人とのつながりや支え合い、これまで受け継がれてきた文化や自然など、最上町には大切に生きてきた強みもあります。これらを生かしながら、これからの時代にふさわしいまちづくりを進めていきます。

本計画は、町の現状や課題を整理し、今後5年間に重点的に取り組む方向性を示したものです。町民の皆さんの声をもとに、ともに進めていくまちづくりの指針としてまとめました。

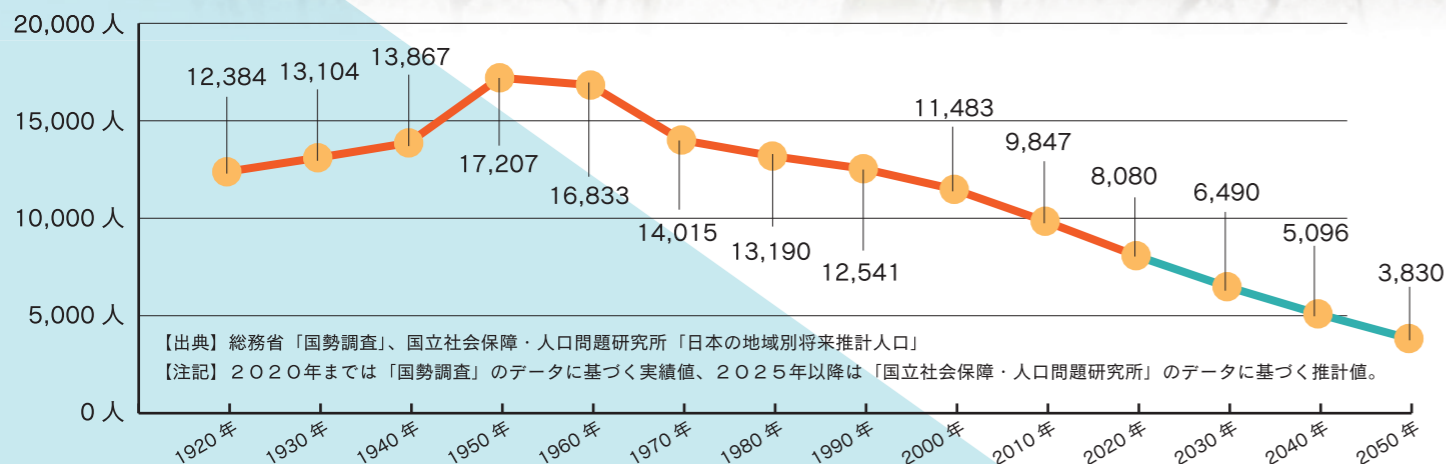
これからのまちづくりは、行政だけで進めるものではありません。一人ひとりの関わりや行動が、町の未来を形づくっていきます。

未来は、誰かがつくるものではなく、私たちの選択と行動の積み重ねによって生まれます。これからの一歩を、みんなが踏み出していきましょう。

人口は、これからも減少していきます

最上町の人口は、今後も減少が続くと見込まれています。この変化を前提に、暮らしをどう支えていくかが重要になります。

町の総人口の推移と将来推計



未来をつくる、

第1章

楽しいね

と言えるまち
(子育て・教育・文化)



いまの課題に向き合い、これからの最上町をともにつくっていきます。

第2章

幸せだね

と言えるまち
(保健・福祉・医療)



これらのプロジェクトは町が掲げる基本目標や基本政策等に基づいて進めてまいります。

地域活性化プロジェクト

地域資源を生かし、農業や商工業の活性化と雇用の創出を進め、安定して働ける環境づくりに取り組みます。



人の流れをつくるプロジェクト

観光や移住の促進により、交流人口・関係人口を増やし、町に人の流れと新たなにぎわいを生み出します。



次世代を育むプロジェクト

子育てや教育環境の充実を図り、安心して子どもを産み育て、将来を担う人材の育成を進めます。



安心・安全な暮らしプロジェクト

医療や福祉、防災、生活基盤の整備を進め、誰もが安心して暮らし続けられる環境づくりに取り組みます。



持続可能な未来プロジェクト

環境に配慮した取り組みを進め、資源の有効活用や脱炭素化を図り、持続可能な地域づくりを目指します。



デジタル革新プロジェクト

デジタル技術を活用し、行政サービスの利便性向上や情報発信の強化など、暮らしの質の向上につなげます。



第3章

安心だね

と言えるまち
(建設・防災)



その変化をつくるのは、私たち一人ひとりの行動です。

これらの取り組みは、日々の暮らしの中で少しずつ変化として現れていきます。子育てや教育の環境がさらに充実し、安心して子どもを育てることができるようになります。

また、医療や福祉の連携が進み、年齢に関わらず安心して暮らせる環境づくりが進んでいきます。地域では、人と人とのつながりがより深まり、支え合いの輪が広がっていきます。一人では難しいことも、地域で支え合うことで安心につながっていきます。

さらに、デジタル化の推進により、行政手続きやサービスの利便性が向上し、日常生活の中の負担軽減にもつながります。こうした一つひとつの変化が積み重なり、暮らしやすさの向上へとつながっていきます。これからの最上町は、今ある強みを生かしながら、より安心で、より暮らしやすい町へと進んでいきます。



第6章

住みやすいね

と言えるまち
(定住・協働)



第5章

美しいね

と言えるまち
(環境・エネルギー)

第4章

豊かだね

と言えるまち
(産業・経済)



6つの重点プロジェクト

町を取り巻く課題に対応するため、6つの分野で重点的に取り組みを進めていきます。

これらの取り組みは、それぞれが独立したものではなく、互いに関わり合いながら、町全体の暮らしの質を高めていくものです。人口減少や少子高齢化が進む中でも、安心して暮らし続けられる町を目指し、今できることに着実に取り組んでいきます。

第5次最上町総合計画の将来像

明日、今日より
もっと好きになれる
最上町

基本目標

協働でつくる 次代へつなぐ
持続可能なまちづくり

最重要施策

1. 次世代を育む環境づくり
2. 安心・安全な暮らしの推進
3. 地域活力の創出
4. 持続可能な未来づくり
5. デジタル革新の推進
6. 後期基本計画をはじめとする重要計画の着実な実行
7. 第8次行財政改革プランの着実な実行

次のページでは予算の使い道などを
ご紹介いたします。

まちづくりと予算

令和8年度の財政運営の概要をお伝えします

いただいたご意見を
計画につなげます

振興審議会からの答申
を受け取りました

町では、「第5次最上町総合計画後期基本計画（案）」などについて、最上町振興審議会において審議いただき、令和8年3月16日に答申を受けました。

審議会からは、地域コミュニティの担い手確保や若者・女性の参画促進、防災・消防分野における担い手不足への対応、町民への分かりやすい情報発信の強化など、今後のまちづくりに向けた重要なご意見をいただきました。

また、関連計画との整合性や、施策を着実に実行していくための見通しの重要性についても指摘がありました。

町では、これらの意見を踏まえ、計画の着実な推進と、町民の皆さんに分かりやすい情報発信に取り組んでいきます。



町振興審議会の佐藤隆会長より
提出された答申を受け付ける

思いを受け止め、これからへつなげていきます

一つひとつの思いを、これからへ

計画の策定にあたり、パブリックコメントなどを通して、町民の皆さんから多くのご意見をいただきました。ここでは、主なテーマごとに寄せられた声と、それを受けて目指す姿や取り組みを紹介します。

寄せられたご意見の中には、子育てや教育環境の充実、医療や福祉への安心、地域のつながりの大切さなど、暮らしに直結する声が多くありました。

また、働く場の確保や若い世代の定住、公共交通の維持など、これからの町のあり方に関わる意見も多く寄せられています。これらの声は、今回の計画の中にも反映されており、町民の皆さんとともに考え、つくっていくまちづくりの基盤となっています。これからも、皆さんの声を大切にしながら、よりよい町づくりを進めていきます。

教育（部活動）

部活動指導員の配置状況や進捗が
明確に分かるようにしてほしい

めざす姿：部活動の体制や成果が見える、安心して活動できる環境

取り組み：配置率を明確にし、毎年度の点検・確認を行います



教育（通学安全）

通学の安全対策がどのくらい進んでいるか
分かるようにしてほしい

めざす姿：通学時の安全が確保され、安心して通える環境

取り組み：事故件数やヒヤリハット対応率を指標に安全対策を進めます



子育て（居場所）

巡回型遊び場を子どもが参加しやすい
形にしてほしい

めざす姿：子どもが気軽に参加でき、安心して過ごせる居場所がある町

取り組み：実施場所や時間、運営方法を工夫し、参加しやすい形で実施します



医療

町立最上病院を含む医療提供体制の
見通し・役割分担を整理してほしい

めざす姿：地域の医療体制が分かりやすく、安心して受診できる町

取り組み：医療機関の連携や役割分担、在宅医療の体制づくりを進めます



計画の分かりやすさ

国・県方針や制度との対応関係が
分かる資料を示してほしい

めざす姿：計画の内容が分かりやすく、誰もが理解できる町

取り組み：対応関係を整理した資料の作成や情報発信の充実を図ります



環境（脱炭素）

省エネ（高効率空調等）や再エネ由来電力の
活用を記載してほしい

めざす姿：環境に配慮し、持続可能な暮らしができる町

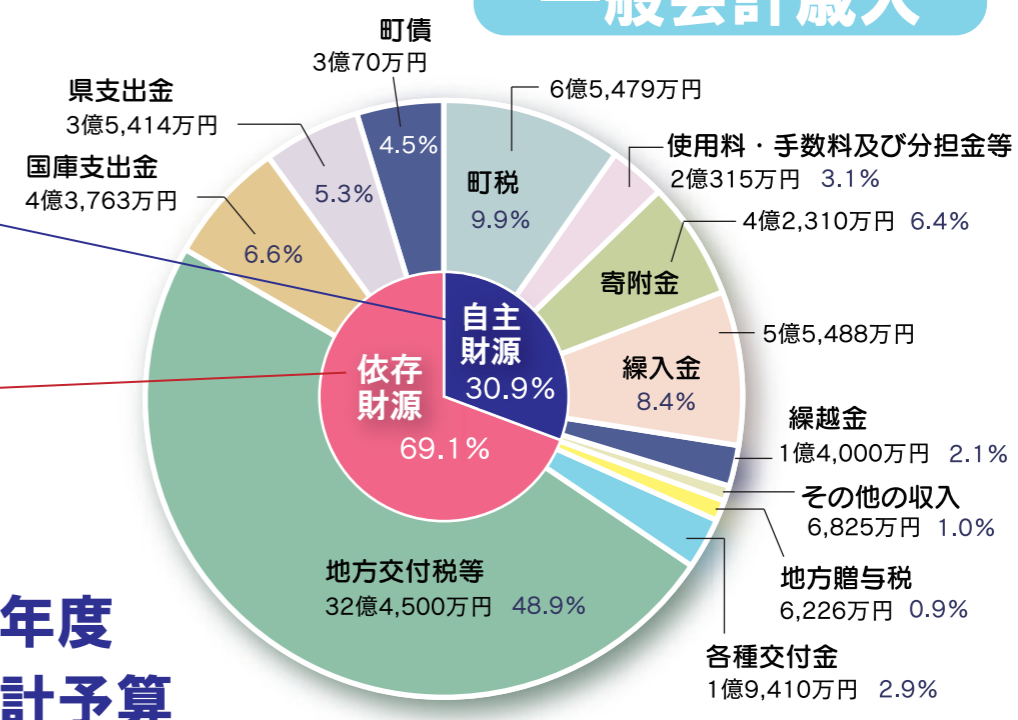
取り組み：省エネ支援や再エネ導入、公共施設での活用を進めます



これらの声を踏まえ、令和8年度も未来に向けて町政運営してまいります！

予算の概要

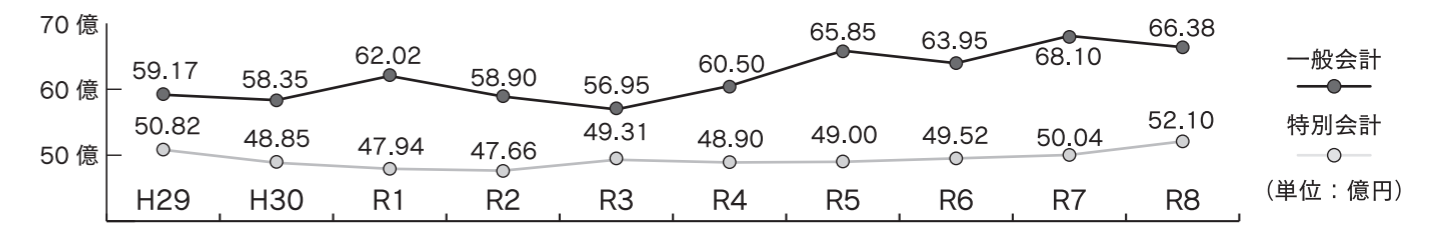
一般会計歳入



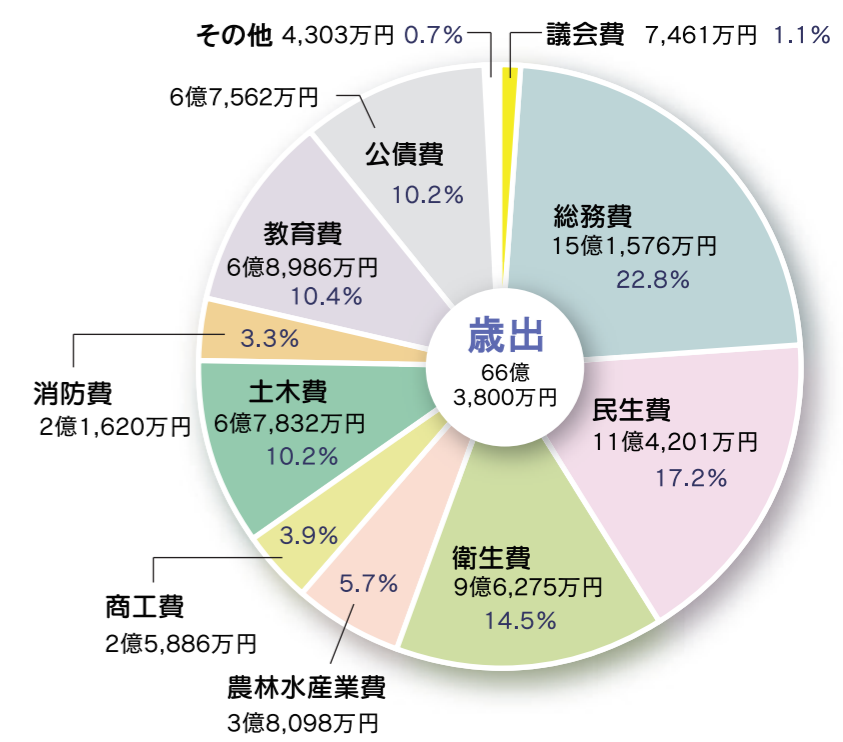
令和8年度 一般会計予算

66億3,800万円 令和7年度 一般会計予算 68億1,000万円

前年度比1億7,200万円減



一般会計歳出



一般会計の概要

令和8年度の一般会計当初予算総額は66億3,800万円です。前年度当初予算に比べ、1億7,200万円の減額となりました。歳入につきましては、主に町税、地方交付税等で6割以上を占めており、前年度に比べ町税は1.7%減、地方交付税等については同程度を見込んでおります。負担金については、国の小学校給食費負担軽減交付金により、今年度から小学校の給食費が無償化になることにより23.5%減となっております。

歳入につきましては、主に町税、地方交付税等で6割以上を占めており、前年度に比べ町税は1.7%減、地方交付税等については同程度を見込んでおります。負担金については、国の小学校給食費負担軽減交付金により、今年度から小学校の給食費が無償化になることにより23.5%減となっております。

歳出につきましては、総務費はゼロカーボンシティ推進事業（家庭向け太陽光、蓄電池、木質燃焼器等の導入補助等）、税証明等コンビニ交付対応事業等により6.0%増加しております。教育費については4.9%の減少となっているものの、温水プール水泳槽改修事業、最上中学校ボイラ更新事業、多目的ホール空調設備設置事業等大規模事業が含まれております。減少の要因としては、歳入でも記載いたしました小中学校タブレット端末更新が完了したことによりです。

自主財源 30.9%

町税や使用料など、町が国や県に頼らず自主的に調達できるお金のことです。自主財源が多いと町の予算にゆとりが生じるため、歳入に占める割合ができるだけ高いことが望ましいとされています。

依存財源 69.1%

地方交付税や国・県支出金など、国・県の意思により交付されるお金のことです。また、町債も依存財源に該当します。

まちの財政指数

※下記の財政指数は見込んで算出しています。

項目	令和8年度	令和7年度
実質公債費比率	10.5%	10.5%
公債費負担比率	10.9%	10.8%
経常収支比率	92.0%	91.0%
将来負担比率	23.0%	24.0%

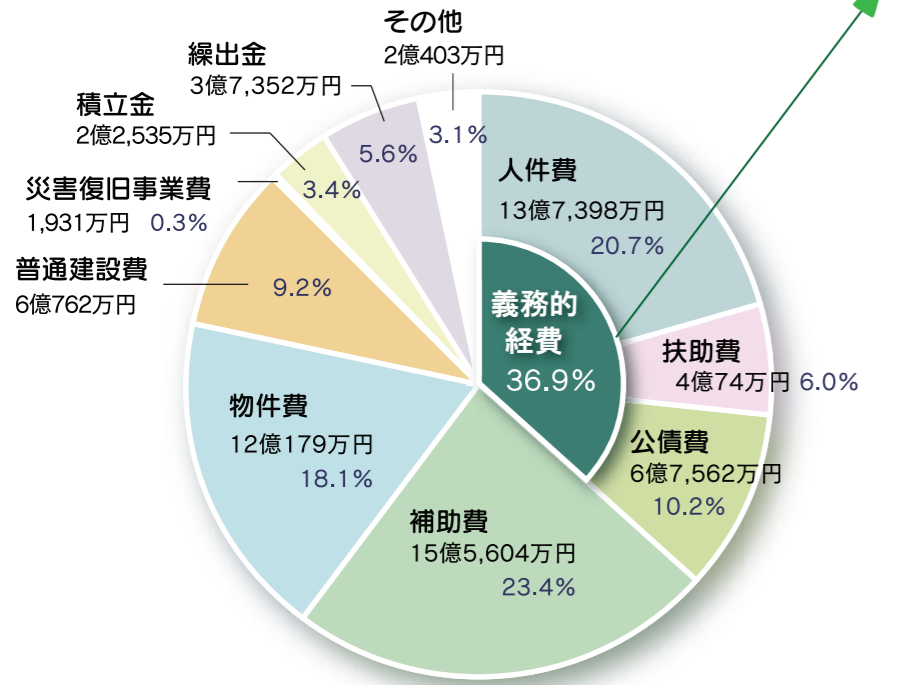
増加、衛生費は主に病院事業への繰入金が増え、4.0%増加しております。商工費は、前森高原が町直営になることにより、前森活性化施設運営事業の新設と、物価高騰対策として事業者向けの物価高騰対応賃上げ支援事業により31.7%増加、土木は、道路の新設・改良費の増と物価高騰対策として、住民向けの水道基本料金減免に係る水道事業会計への繰入金増により

特別会計の概要

4.9%増加しております。教育費については4.9%の減少となっているものの、温水プール水泳槽改修事業、最上中学校ボイラ更新事業、多目的ホール空調設備設置事業等大規模事業が含まれております。減少の要因としては、歳入でも記載いたしました小中学校タブレット端末更新が完了したことによりです。

一般会計の使われ方

義務的経費 36.9%
人件費、扶助費、公債費の3つからなり、支出することが義務づけられている経費です。



会計別予算額（特別会計を含む）

会計別	令和8年度	令和7年度	増減額
一般会計	66億3,800万円	68億1,000万円	△1億7,200万円
特別会計	52億1,030万円	50億390万円	2億640万円
国民健康保険事業	9億3,800万円	9億3,700万円	100万円
後期高齢者医療事業	1億7,490万円	1億4,100万円	3,390万円
介護保険事業	11億7,800万円	12億500万円	△2,700万円
最上病院事業	13億5,045万円	13億243万円	4,802万円
介護老人保健施設事業	3億8,599万円	3億7,412万円	1,187万円
水道事業	4億3,968万円	4億6,617万円	△2,649万円
瀬見温泉管理事業	1,775万円	1,322万円	453万円
下水道事業	7億2,553万円	5億6,496万円	1億6,057万円
全会計	118億4,830万円	118億1,390万円	3,440万円

※端数処理の為、数値が一致しない場合があります。

特別会計は予算を使用する用途が限定されており、一般会計の歳入歳出予算と区別している会計です。

令和8年度の特別会計全体の予算は52億1,030万円です。前年度と比べて4.1%増となりました。前年度と対比して主に増額の割合が多かった内容は、以下の通りです。後期高齢者医療事業は広域連合への納付金の増加により24.0%増、瀬見温泉管理事業は源泉ポンプ更新のため34.2%の増、下水道事業は向町浄化センター電気設備更新等のため28.4%の増となっております。

また、介護保険事業、水道事業については、事業量の減と起債の償還が進んだことにより減少となっております。

今後も最小の経費で最大の効果が得られるように、そして町民の皆様にとって、きめ細やかなサービスを提供できるよう財政運営を行います。